

2 県立高校の現状と課題

(1) 県立高校の 現状

国際化、情報化、科学技術の進展とともに産業構造の変化など、社会情勢の急激な変化に伴い、生徒の興味・関心や進路希望、価値観も多様化しています。

一方、少子化に伴い、学校の小規模化が進み、学校の活力が低下し、生徒が互いに切磋琢磨する機会が少なくなっているなどの課題が生じています。

このため、生徒が心豊かにたくましく生きる力を育むことができるよう、より質の高い教育を提供し、生徒一人ひとりの夢の実現を支援する特色ある学校づくりを推進していくことが重要です。

【生徒の多様化】

本県では、生徒一人ひとりの個性を尊重した選択幅の広い教育の実現を目指して、これまで、「特色ある学校づくり」「入学者選抜の改善」「中学校の進路指導の充実」を図るとともに、普通科の通学区域を改善するなど、生徒一人ひとりの能力や個性に対応した多様な教育を進めています。

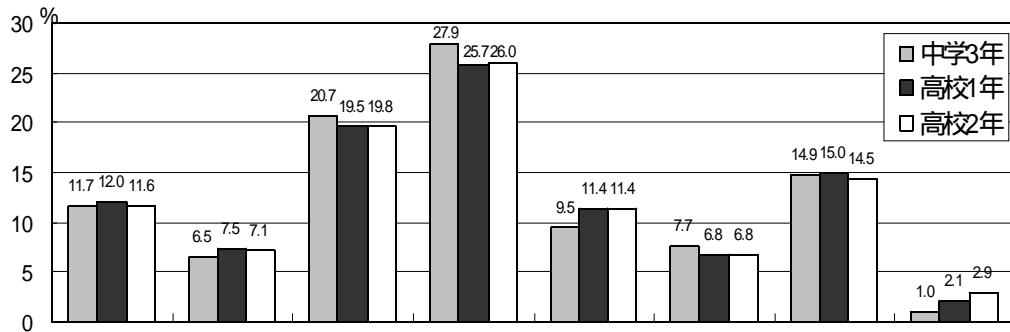
しかし、今日の高校においては、将来に対する明確な夢や希望をもって意欲的に学習や部活動に取り組み、積極的に学校生活を送っている生徒がいる一方で、明確な目的意識がもてず学習意欲が十分でない生徒もいます。さらに、入学後、学校生活になじめない生徒や、中途退学した後、改めて異なった課程の高校へ入学する生徒も見られます。

【生徒のニーズの多様化】

情報化や国際化など、社会の急激な変化に伴い、生徒の興味・関心や進路希望等が多様化し、生徒や保護者は、県立高校に幅広い期待を寄せています。

平成14年11月に、県内の中・高校生及びその保護者を対象として実施したアンケート調査によると、生徒や保護者の高校に対する要望として、「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できるようにする。」「技術、技能の習得や職業資格につながる学習を行う。」「学校行事や部活動などの取組みを活発にする。」などの意見が多く見られます。

高校に対する要望



情報化や国際化などに対応した特色ある学科・コースを設置する。

自分の学校にない授業を他の学校でも受けられるようにする。

技術・技能の習得や職業資格につながる学習を行う。

自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できるようにする。

先生だけでなく、地域から専門家を招いて授業を行う。

総合学科や単位制高校、中高一貫教育校などの新しいタイプの学校を設置する。

学校行事や部活動などの取組みを活発にする。

その他

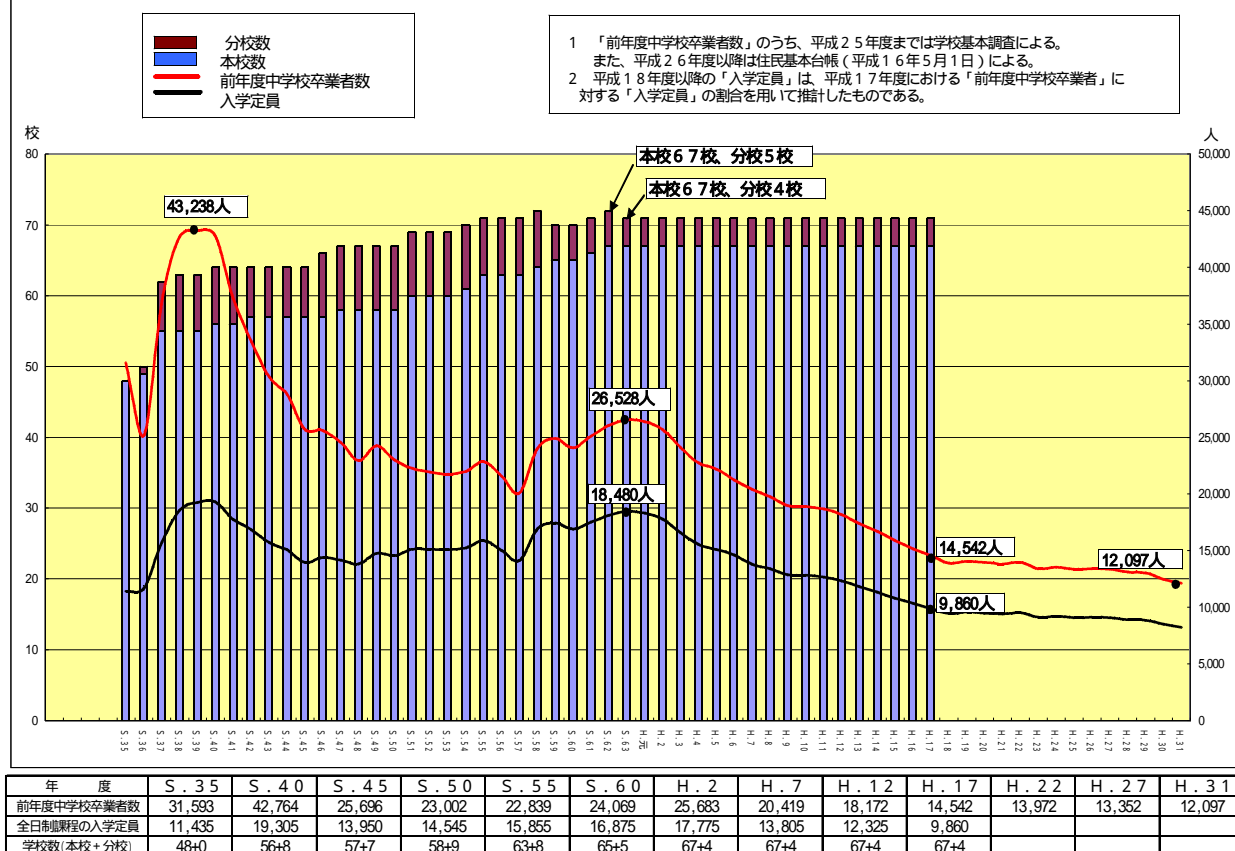
【中学校卒業者の減少】

県内の中学校卒業生数の直近のピークは、昭和63年3月の約26,500人であり、それ以降は減少に転じ、平成17年3月には約14,500人にまで減少が進んでいます。今後も中学校卒業生数の減少傾向は続くものと見込まれ、平成26年3月には約13,400人となり、ピーク時の約50%まで減少が続き、平成31年3月には、約12,000人になると予測されています。

このような生徒減少に対し、県立高校では、これまで各県立高校の募集学級数の削減により対応してきた結果、平成17年度には、1学年3学級以下の学校（本校）が34校となるなど、小規模化が進んでいます。

学校規模が小さくなることにより、学校行事等において生徒一人ひとりがそれぞれ役割を担うことができるようになることや、生徒全体に目が行き届くことにより手厚い指導が可能になる反面、生徒数や教員配置数が減り、教科・科目や部活動等の選択幅が狭まったり、多様な人格とふれあう機会や生徒同士が切磋琢磨する場が少なくなるなどの課題が生じてきています。

本県の中学校卒業生数と公立高等学校全日制課程の入学定員・学校数の推移



(2) 県立高校の課題とめざすべき方向

県立高校においては、高校教育や県立高校の抱える諸課題への対応を含め、生徒にとって魅力ある学校づくりが求められています。このため、意欲と希望をもって高校への進学を望む生徒たちに、幅広い進学を提供するよう努めるとともに、自らの興味・関心や進路希望等に対応した学習内容を選択できる特色ある学校づくりを一層推進するなど、より質の高い教育が提供できる教育環境や教育条件の整備・充実を図る必要があります。

また、障害のある生徒など、特別な支援を必要とする生徒に対しては、中学校や盲・聾・養護学校等と連携を図りながら、生徒一人ひとりの実情やニーズに応じた適切な支援を行うことが期待されています。

このため、今後、県立高校は、次のような方向で学校づくりを進めます。

この方向は、再編統合の対象となる学校だけでなく、すべての学校がめざすべきものであり、その実現が、生徒にとって、より魅力のある高校となるものです。

生徒の多様なニーズに対応した特色ある学校

生徒一人ひとりの興味・関心や能力・適性、進路希望等に対応できる特色ある学校づくりを推進するとともに、教科・科目の選択幅の拡大を図る。

キャリア教育を充実し、生徒一人ひとりが進路希望等に応じて資質能力などを伸ばすことのできる学校づくりを推進する。

基礎・基本の確実な定着、学力の向上、創造力の伸長等を目指し、多様な学習活動を行う。

意欲のある人が、いつでも高校教育を受けられる柔軟なシステムをもつ学校づくりを推進する。

生徒や教職員が生き生きと活動する活力のある学校

生徒が自ら学び考え、わかる喜びやできる喜びを実感できる活力ある学校づくりを行う。

生徒が互いに切磋琢磨し、主体性をもって学校生活を送ることができ学校づくりを行う。

部活動に対する生徒の多様なニーズに応えるとともに、学校の枠を越えての取組みや地域との交流を進め、技術・技能のレベルアップに努めるなど、部活動の活性化を図る。

教職員が、教育に携わるものとしての使命感と自覚、意欲と情熱をもって教育活動にあたる学校づくりを行う。

地域からの信頼に応える開かれた学校

各学校が主体的に学校運営情報を発信するとともに、教育目標とそれに基づく教育活動等を学校の内外で評価し、運営の充実・改善を図るとともに、地域社会の教育力を活用するなど、地域との連携を深め、県民に開かれた学校づくりを進める。

学校のもつ教育機能の提供などにより、県民の生涯学習ニーズに応えられる、「地域の学習センター」としての役割を果たす学校づくりをめざす。

生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう、校内体制の整備や教職員の危機管理意識の向上に努めるなど、安心・安全な学校づくりを進める。